西東京市市民協働推進センター

平成 27 年度第 6 回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：平成 27 年 10 月 20 日(火)午後 7 時 00 分～9 時 00 分
■開催場所：ゆめこらぼサロンコーナー
■出席委員：池田委員、小松委員、紺野委員、坂口委員、佐藤(文)委員、佐藤(留)委員、鈴木委員、田中（友）委員、田中(紀)委員、谷委員、富沢委員、中村委員、藤江委員＜以上 13 名、五十音順＞
■事務局　：内田センター長、佐藤副センター長、丸木福祉活動推進課長、石井地域福祉推進係長、塚澤主事

1.報　告　事　項

1.業務報告について

事務局より、9 月期の主催事業、その他事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談の状況について説明があった。

委　員：相談記録の中で、西東京ボランティア・市民活動センター（以下、ボラセン）を相談者に紹介したのか。
事務局：確認する。
委　員：ボラセンが行っている講座等はゆめこらぼで把握しているのか。
事務局：社協のホームページに載っているものは、ゆめこらぼのホームページにアップしている。
委員長：ボラセンとの連携協働を進めて欲しい。
委　員：主催事業の次に説明したその他事業とは何か。
事務局：職員が研修等に参加しているものである。
委　員：研修等への参加はどういう基準で決めるのか。
事務局：業務に必要か否かである。
委員長：研修等は事業ではないと思うので、事業という表示は削除すること。

2. 10 月以降の事業について

事務局より、10 月以降の実施事業などについて説明があった。

委員長：受け入れ側だった団体としては、まちめぐりに対してはどうだったか。
委　員：普段我々が案内するのは、平日だが土曜、日曜にやってもらえるとありがたいとの意見があり、こういう企画は土日で開催して欲しい。皆さん熱心に聞いていた。
委員長：地域協議体に対しては、発足以降は行政から補助金が出るのか。
事務局：町内会・自治会とは別に出るとのことである。

2. 審　議　事　項

1. 前回の会議録について

事務局：先ほど委員から訂正の原稿をもらった。

委員長：訂正を入れたものを次回配布してほしい。他に質問はないか。前回の会議で懸案になっていた地域デビューシリーズでは若年層や家族連れなどの想定以外の参加者はあったのか。

事務局：無かった。会議録は今週末までに意見がなければ確定稿とし、今ある追加の訂正は次回配布することとする。

3. 協　議　事　項

1. 広報・PR 事業について

事務局よりキャッチコピーとリーフレットについて説明があった。

委員長：単純に多数決で決める事ではないが、意見を聞きたい。

委　員：ゆめこらぼという名称と重複するので、ゆめはコラボで加速するはやめた方が良いと思う。ここの役割を伝える言葉にして欲しい。

事務局：裏のページにもキャッチコピーがある。投票後に提出があったものである。

委　員：キャッチコピーがゆめこらぼの役割だとすると、そのうえに理念があるのではないか。その理念をつけて欲しくて提出した。

委　員：キャッチコピーだけで、ゆめこらぼの内容を示すのではなく、理念が欲しい。理念を具体的にするのがゆめこらぼだとして欲しい。キャッチコピーだけでゆめこらぼを売り出すのは違和感がある。

委員長：名刺とかにロゴの上に乗せるとか、スローガンという言い方もあるが、どんな言葉にしてもキャッチコピーだけでは説明しきれない。団体の存在意義をキャッチコピーで、その後にリードコピーを付けて説明する流れがあるのではないか。

委　員：キャッチコピーの候補の中にある、まちづくりという言葉に気持ち悪さを感じる。市民活動に取り組んでいる方にとってまちづくりのイメージはあるが、そうでない大半の方にとっては都市計画のこととか、デベロッパーが家を建てることなど解釈がばらつく言葉だと思うのでそれを全面に掲げることについて良し悪しの意見が聞きたい。

委員長：開発という言葉を国際協力の分野でまちづくりと同様の意味合いで使用するが、国内ではダムを作る等のイメージがある。同じようなニュアンスを感じるという点の意見ではないか。市民活動・NPO・NGO の活動の中にはこの地域に根差していない活動もあり、必ずしもまちづくりに収束できない。市民活動＝まちづくりではないので多くはまちづくりに関わっているかもしれないが、ゆめこらぼ自体はこの地域だけをターゲットにしているのではなく、この地域で活動している市民団体を支援するということもある。

委　員：キャッチコピーはゆめこらぼを説明するようなものでなくてもよいのではないか。キャッチコピーだけ聞いても何のことなのか分からないことも多い。

委員長：キャッチコピーだけでは分からなくても、キャッチコピーと団体名とが一緒に表記されることで、何を主張しているか分かる。

委　員：決め方というのであれば、一番使う事務局が合意できるものを選べは良いと基本的には考える。「あなたが役立つ、あなたに役立つ」というキャッチコピーについては、特に上から目線という感じはしないが、ゆめこらぼの活動主旨・目的としては弱い感じがする。特に大きく反対ではない。

委員長：ゆめこらぼ自体の支援対象が個人の一般市民だけではなく、団体も対象であることを考えると、団体にとって「あなたが役立つ、あなたに役立つ」というキャッチコピーは違和感があるのではないか。

委　員：ゆめこらぼにキャッチコピーを頭に被せることで議論が進んでいるが、それと別に理念を付け加えるようにして欲しい。

委員長：覚えてもらいやすいようにすることも重要である。理念をミッションとして別に切り分けたらどうか。

委　員：ゆめこらぼのミッションは市民に当事者意識をもたせることだと思うので、そのことをキャッチコピーに掲げて欲しい。

委　員：キャッチコピーの役目として目を引くための条件があると思うが、どんなことがあるか。

委員長：ビジュアル的にも、13 文字以内というようなことが言われている。

委　員：現在のキャッチコピーを変える必要はないという考えもあるのではないか。

事務局：それも一つの候補として投票いただいたが、結果的には最小数の票数だった。

委　員：個人にとっても団体にとっても、あつまろう、つながろう、ささえあおうということにつながるようなものがいいのではないか。

委　員：今の理念のあつまる、つなげる、ささえるというのは主語に一貫性がないので、見直すことも考えられるのではないか。

事務局：次回は、デザイン案を提示するので、併せてキャッチコピーも提案させていただくことはできる。

委員長：では、次回に本日の意見を反映して提示して欲しい。キャッチコピー以外でリーフレット全般について委員からいただいた主だった意見は何か。

事務局：堅苦しくないものという意見で、そのことはデザイナーに伝えて検討していただいている。

2. 今年度上半期の事業運営結果について

事務局より平成 27 年度上半期西東京市市民協働推進センター事業報告の概要について説明があった。

委　員：避難所運営ゲームの成果など聞きたい。

事務局：過去 2 年間やってきたことを含めてだが、地縁組織との関わりがなかったが、学校単位の避難所運営協議会やふれあいのまちづくり、住民懇談会などの地縁組織との関わりができた。また、公民館などとの繋がりができた。ただ、ゆめこらぼとの関わりであり、本来目的である NPO との関わりはこれからの課題だと考えている。

委　員：ひまわり事業だが、ゆめこらぼに移行しての違いはあるか。

事務局：一番大きかったのは朝日新聞にカラーで掲載されたことだったと思うが、ゆめこらぼのホームページを活用したことで連絡体制や進捗報告が改善されたのではないかと考えている。

委　員：ひまわり事業にゆめこらぼが参加することにより市民活動団体に混乱が生じているのではないか。本当にゆめこらぼの事業としてやるべきものなのか疑問に思う。

事務局：始まる当初は関係団体から疑念があったが、進めていくうちに理解してもらった。内容は市のやっていたことをそのまま引き継いだ形である。今後どのように絡んでいくかが課題ではある。

委員長：中間支援組織として関わるのが難しい。ゆめこらぼが絡むことにより賛否はあるかと思うが、コーディネーションの部分はここの仕事だと思う。

委　員：幅の広い事業だと感じるが、事業をやるにあたり運営面で人手不足とかお金が足りないとの振り返りはどうか。

事務局：回しているのが精一杯でご指摘の点については今回の報告では至っていない。

3.来年度事業計画について

事務局より、平成28年度西東京市市民協働推進センター事業計画について説明があった。

委　員：NPO市民フェスティバルを市民まつりでやることはできないのか。市民まつりを有効に使い団体を紹介などするのはどうか。なぜ市民まつりではいけないのか。

事務局：当初は出展し相談を受けたりしていたが、お祭り的な場所にはそぐわなかったと思われる。ゆめこらぼで出展した時は、市の事業であったため、出店料は無料であった。NPO市民フェスティバルに代わるものが出来るのかどうかを考えなくてはならない。レイアウトを決めるのは市民まつりの実行委員会なのでゆめこらぼがやりたいことが通るとは限らない。

委　員：今年度もかなりいっぱいいっぱいでやっているようだが、次年度は余裕のある運営ができるのか、余裕がなく新しい事業を追加していくのか。少し余裕を持った運営をしないと業務ばかりが増えてしまうことをどう考えているのか。もうひとつの質問は、スタッフの研修はどのようなことをしているのかという点である。

事務局：この事業計画にもとづいて活動計画を検討している。新しい企画もあるのでイベントの数が増えている点もあるが、一連の企画にして事前準備の負担を減らすような工夫をしたり、数を減らす検討をしたいと思っている。研修については、昨年までは職員の入れ替わりがあり新人を中心にNPOなどの研修へ参加してもらっていたが、最近は定着するようになっているので、今後はスキルアップができる研修を予定したい。

委　員：適切な研修に行くことで相談業務の質が上がる。市でやっていることなので、ある程度決まったものになってくるが、協働の良い事例などを複数の職員で研修できれば運営にもよい影響があるのではないか。私たちNPOでもやっている。いい形での研修を採り入れるとよい。

委員長：東京ボランティア・市民活動センターに中間支援組織の職員だけのための講座もある。これは有用である。

委　員：全体をきっちり把握はしていないが、一昨年度から講師を呼んでマルチステークホルダーの強化をしているが、マルチだけにこだわる必要はない。二者間の協働、具体的な結びつきの推進が、新宿NPO協働推進センターでは企業と市民活動団体の出会い等をやっているがそういう視点での具体的な取組はあるのか。

事務局：まちづくり円卓会議が近いのかとは思う。具体的に協働で何らかの活動に結び付けていけるようなところまでやっている。

委員長：協働のまちづくりワークショップも行政と市民動団体を対象としている。かつて企業と市民を対象としたが、新宿と違い大きな企業等がなく、なかなか難しかった。まちづくり円卓会議にもっと企業に参加してもらうことも考えられる。まちづくり円卓会議を都内でやっているところはないと思うので、情報交換している近隣5市まで広域に広げて協働フォーラムを進めていくことも具体的な企画にする際には考えられるのではないか。広域であればリソースもあるのではないか。

委　員：ゆめこらぼが助成金を受けて事業展開することはできないのか。
委員長：その場合は、委託料が減額になると思う。
委員長：事業ではないが、ボラセンとの連携についての記述を入れてはどうか。
委　員：成果目標のところだが、数字も大切だが、機能を強化するとか理解を深めるなどの目標にすべきではないか。
委員長：講座について市民活動で必要だと思うものがあれば意見を聞きたい。
委　員：地域コミュニティ支援施策への協力という項目があるが、特定の方向性をもった支援をするのか、テーマをもって支援するのか。
事務局：来年の２月に南部地区に地域協議体ができて自治会などを含めて情報交換会を開くことになっている。そこにゆめこらぼとして参加することになる。
委　員：高齢者が家に閉じ籠っているという現状がある。それに対する支援を考えて欲しい。
事務局：現時点では屋上屋にならないために、新しい事業をするのではなく、情報交換をすることからスタートしようとしている。
委員長：地縁組織のネットワークの中に中間支援組織が入っているのは少なく、良い機会だと思うので、事業化することとは別として、方針を立てて関わっていくような取組みをして欲しい。
事務局：先程の高齢者支援の点については、生活支援コーディネータ関連のネットワーク作りにゆめこらぼが参加していくことも考えられる。
委　員：ボラセンとの連携に関してだが、文化振興課が文化という括りで市としてボランティアを募集し始めると聞いた。ボラセンだと高齢者福祉とか児童福祉とかで文化とはかなり分野が違うので、間にゆめこらぼが入ることでテーマ型のコミュニティとボランティアを希望する人とのチャンネル作りができるのではないか。ゆめこらぼの事業が増えてしまうという問題はあるかと思うが、ボラセンとの接点という意味ではあると考える。

4. そ　の　他

1. 次回運営委員会日程について

日時：11 月 17 日（火）19 時～21 時

会場：イングビル会議室第 1・第 2 会議室